



Workshop

世界子ども水フォーラム・フォローアップin広島

分科会⑥

いい川づくり

快適な暮らしと 環境保全と

いい川ってどんな川? みんなに聞いてみました。
「手を加えていない川のほうがいい」「自然にふれあえる川」「せせらぎ公園のような、生き物も住んでいて、植物もあって、小さい子どもも安心して遊べる川」「ごみがない川。水がきれいって親しみやすい川」「三面張りじゃなくて、洪水も防いで生き物のいる川」...

いろんな意見がでたところで、アドバイザーからダムや川などの土木構造物について、話をききました。「ダムをつくって洪水は防いだけど、川の環境は変わってしまったという反省から、今は周辺の環境に心を配った多自然型の川づくりをしたり、大きく改変してしまった森にも針葉樹ばかりを植えるのではなく混合林を整備する」などの環境保全対策の方針が変わりつつあること、水をきれいにするのにかかるコストのことなどの説明を聞いたけど、わたしたち子どもは何ができるのだろう。どうやったら、いい川にしていけるんだろう。



●ファシリテーター
広島工業大学大学院
島中 雅英 氏



●アドバイザー
川・森・文化・交流センター
運営協議会事務局長
小田 長 氏



●アドバイザー
中国地方整備局河川調査官
五道 仁実 氏



●アドバイザー
広島市環境保全課水質係主任技師
松室 信宏 氏



……で、私たちが考えたこと。

- 河川改修事業等で川だけがよくなっても「いい川」っていけないよね。川はみんなのもの。危ないから近づかないのではなく、ちゃんと使い方をしなくちゃ。川遊びをするには、あぶないところ、安全なところをまず大人が教えてよ。
- やっぱり水がきれいでないって遊べないよ。
- いい川ならみんな近づかず。ごみ拾いをやったり、捨てないようにするのが一番じゃない?
- 事業を実施する前に、住民と話し合いながらプランづくりをする。でも、どうやって? ホームページで意見交換もできるし、インターネットでワークショップもできると思う。
- 川にもゴミ箱を置いたら?
捨てる人のために置くなんてヘン。ごみを拾う運動とかごみ持ち帰り運動とか、来た人にゴミ袋を渡すとかの活動をしよう。
- ゴミ箱は最終手段。花を植えようよ。
あまり人が手を加えすぎると、自然のよさが失われるんじゃないかなあ。
- セッケンや油を流さない、ポイ捨てしない。

どうやら、ハードの整備もソフト面でも、自然を残しながら人間がどこまでやるか。人間ってどうもその見極めが難しいみたい。いい川をつくるにはいろんな努力が必要なんだね。川のこともよく知って、きれいで安全な川にしよう。



●アドバイザー
温井ダム管理所管理係長
大塚 尚志 氏

3日目・10/13mon. Report

分科会報告、各ワークショップでの報告会です。



宣言文を作成する起草委員会メンバー。

個性豊かな表現でアピールする、各ワークショップのメンバー。



若い皆さんからは、プランを実行に移すエネルギーが伝わってきました。